

平成21年度決算事業評価シート

1 基礎情報

事業名(実施計画)	育児支援家庭訪問事業		予算費目	会計	1	一般会計
事業コード	1-02-02-213			款	3	民生費
政策名	章	いたわりと生きがいのある健康で安全なまち		項	2	児童福祉費
	節	心がふれあう福祉社会づくり		目	1	児童福祉総務費
施策名	小節	児童福祉		細目	180	育児支援家庭訪問事業費
	施策の方向	子育て支援の充実	細々目	1	育児支援家庭訪問事業費	
担当部課	こども育成部こども育成相談課	責任者(課長)	青木 太功美	内線	2249	

2 事業概要

事務事業名(業務棚卸評価)	育児支援家庭訪問事業	
事業目的	対象	目的
	子どもの養育支援が特に必要であると判断した家庭	養育支援が特に必要であると判断した家庭に対し、適切な養育の実施を確保することを目的とする。
事業内容	子育てに対する不安や孤立感などを抱える家庭、食事、衣服、生活習慣等について不適切な養育状態にある家庭など虐待のおそれやリスクを抱える家庭、児童養護施設等の退所後自立に向けたアフターケアが必要な家庭、心身の発達に不安があり、将来精神・運動・発達面において児童に障害が生じる家庭に対して、保健師による育児に対する相談、事業所のヘルパーによる家事、育児支援を行う。	
事業を取り巻く環境(事業に関する市民等のニーズ、国・県等の動向、社会環境等)	核家族化進行により、子育てに対する不安、悩みを持つ親や、家族や地域の子育て機能の低下により支援を必要とする家庭があるため、平成21年4月から育児支援家庭訪問事業を開始する。	
市民参加と協働の活用	家事、育児支援については、特定非営利活動法人に委託するかたちで協働活用している。	
根拠法令、国の方針・計画等	児童福祉法	

3 コスト・財源

事業に係るコスト	直接事業費	財源内訳	20年度(決算)		21年度(決算)		22年度(予算)		
			金額	%	金額	%	金額	%	
		国県支出金(千円)			402		637		
		地方債(千円)							
		その他(千円)							
		一般財源(千円)			410		638		
	A 事業費(千円):(予算に対する執行率)			%	812	54.2 %	1,275	%	
	概算人件費	人件費	常勤職員数		人	0.85	人	0.73	人
			常勤職員人件費(千円)…①			7,650		6,570	
			非常勤・臨時職員数		人		人		人
			非常勤・臨時職員人件費(千円)…②						
	B 人件費(千円)…①+②				7,650		6,570		
総コスト(千円)…A+B				8,462		7,845			

4 目標・実績

事業に係る活動の目標及び実績	指標名	単位	20年度			21年度			22年度		
			目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率
	家事・育児訪問時間	時間	目標			200		278			
			実績			171					
			達成率		%		85.5 %		%		
	保健師による訪問回数	回	目標			240		160			
			実績			154					
			達成率		%		64.2 %		%		
			目標								
			実績								
			達成率		%			%		%	

5 項目別分析

項目	分析結果	理由
必要性 (市民ニーズ)	<input checked="" type="checkbox"/> ①必要性が高い	核家族化の進行により、子育てに対する不安、悩みを持つ親や、家族や地域の子育て機能の低下により支援を必要とする家庭があるため、当該事業による支援が必要である。
	<input type="checkbox"/> ②どちらかといえば必要性がある	
	<input type="checkbox"/> ③必要性が低い	
	<input type="checkbox"/> ④必要性はない	
妥当性 (市が行わなければならないか)	<input checked="" type="checkbox"/> ①市が行わないといけない	児童福祉法で市が事業実施に努めるよう規定されており、市が責任をもって実施すべきものである。
	<input type="checkbox"/> ②どちらかといえば市が実施	
	<input type="checkbox"/> ③市が行う必然性が低い	
	<input type="checkbox"/> ④市が行う必然性はない	
継続性 (引き続き実施する必要があるか)	<input checked="" type="checkbox"/> ①継続性が高い	養育支援を必要とする家庭があるため、今後も継続して実施をする必要がある。
	<input type="checkbox"/> ②どちらかといえば継続性がある	
	<input type="checkbox"/> ③継続性が低い	
	<input type="checkbox"/> ④継続性はない	
効率性 (より効率的な改善が可能か)	<input type="checkbox"/> ①改善が可能である	保健師が育児、養育相談、支援を実施し、家事、育児支援を事業所(NPO法人)に委託し市民協働の活用を図っているため改善の余地は少ない。
	<input type="checkbox"/> ②改善の余地がある	
	<input checked="" type="checkbox"/> ③改善の余地が少ない	
	<input type="checkbox"/> ④改善の余地はない	

6 評価

		評価
活動状況 (課題も含む)	保健師による訪問の中で、精神疾患や精神的に不安定な保護者が養育できていないことの相談が多かった。保健師訪問やヘルパー訪問を終了したケースについて引き続き家庭児童相談室が関わっていくケースが多い。	A
評価内容	養育支援を必要とする家庭があるため、今後も保健師やヘルパーによる育児支援家庭訪問事業を継続していく必要がある。 事業の方向性: 現状維持として実施	